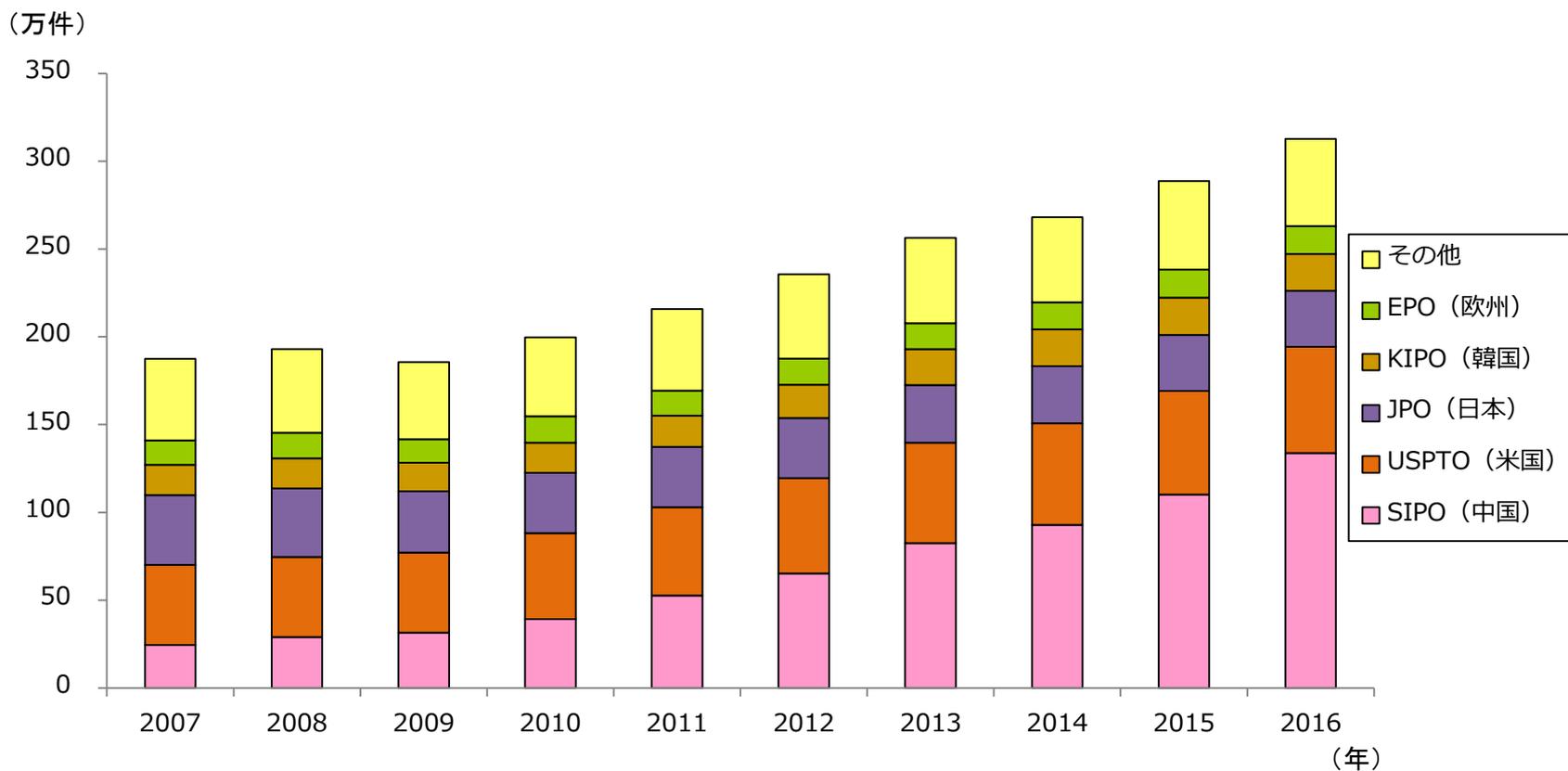
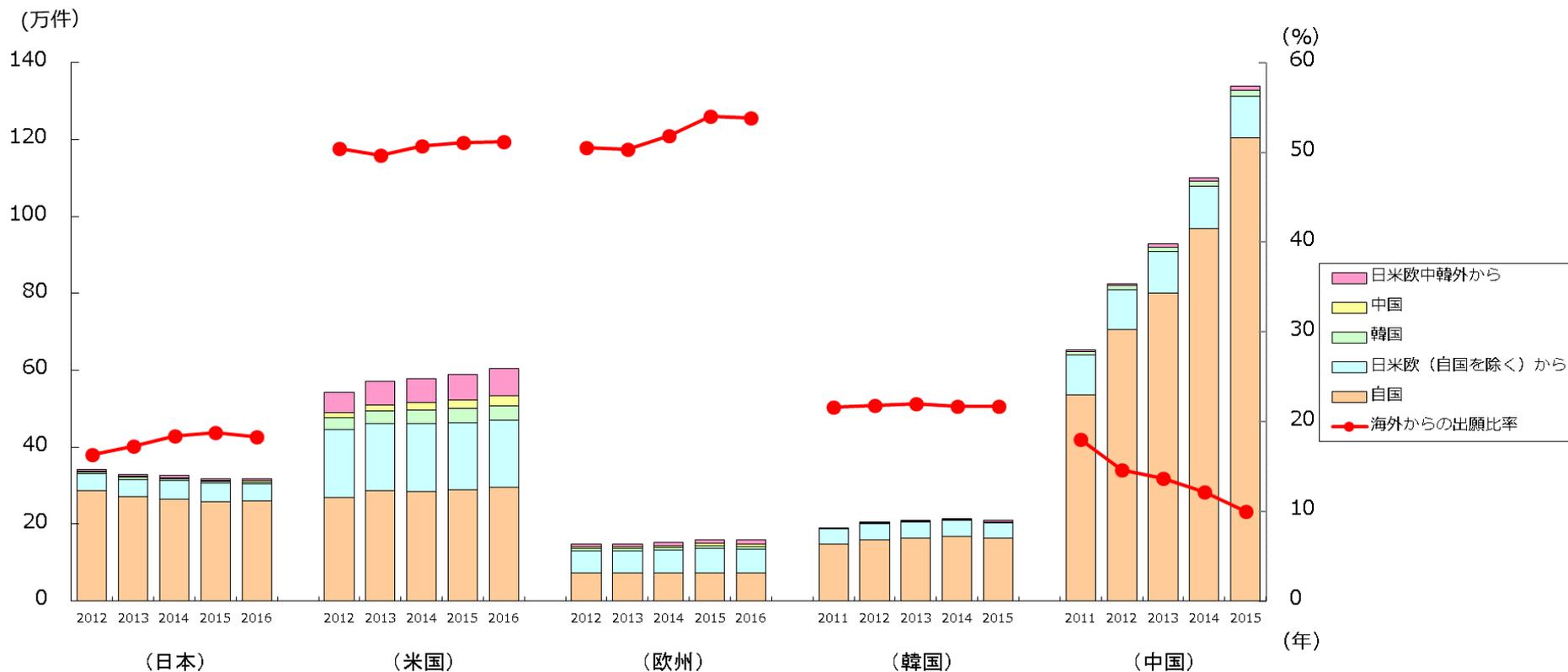


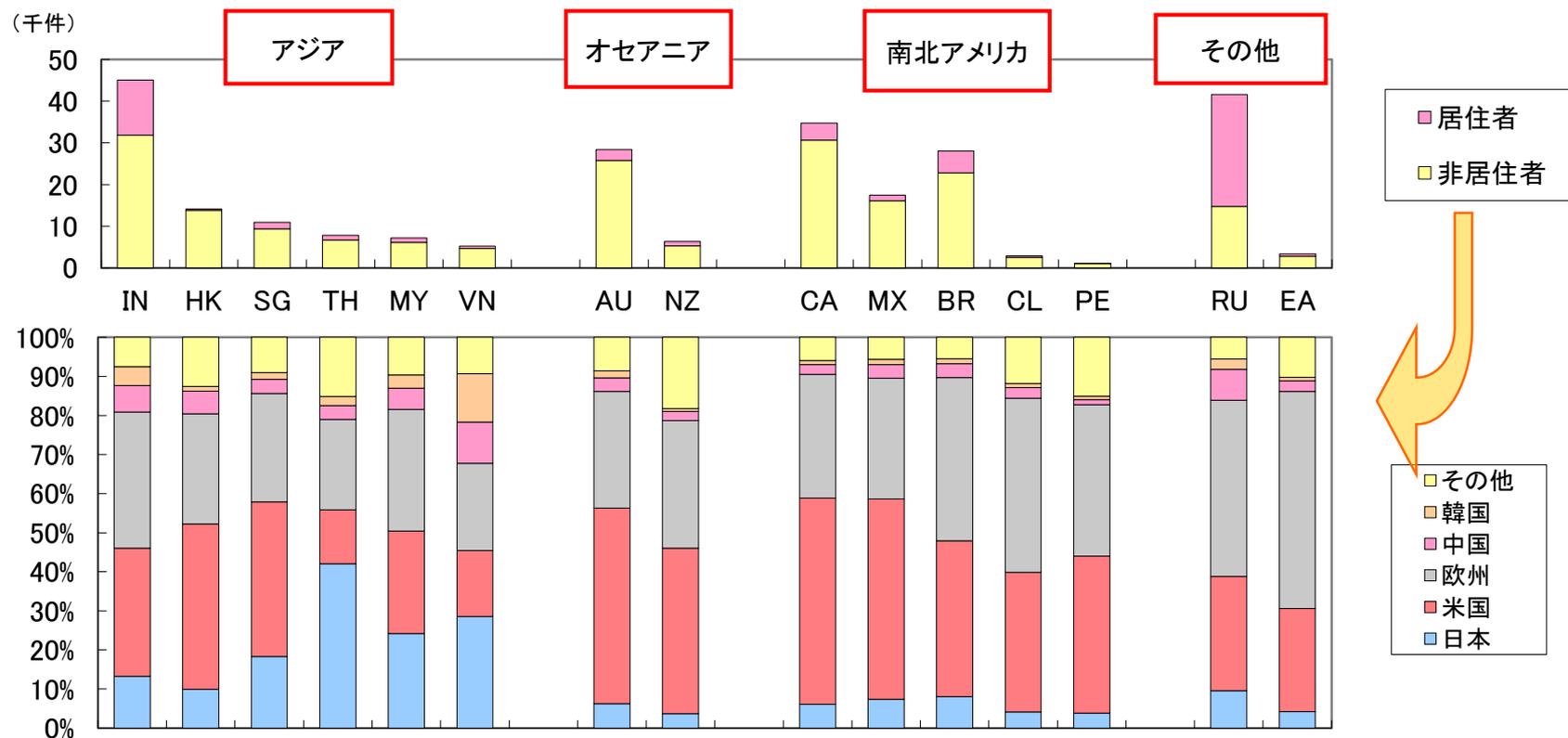
- 世界の特許出願件数は増加傾向。特に中国で増加。



- 海外からの特許出願比率を見ると、欧州・米国では50%程度、韓国・日本では20%程度、中国では10%程度。



- アジア地域への特許出願は、日本・米国・欧州からのものが多い。



(備考)

- ・各略称は次のとおり。IN (インド)、HK (香港)、SG (シンガポール)、TH (タイ)、MY (マレーシア)、VN (ベトナム)、AU (オーストラリア)、NZ (ニュージーランド)、CA (カナダ)、MX (メキシコ)、BR (ブラジル)、CL (チリ)、PE (ペルー)、RU (ロシア)、EA (ユーラシア特許庁)
- ・欧州からの出願は、EPC 加盟国の居住者による出願。
- ・ユーラシア特許庁の居住者による出願は、EAPC (ユーラシア特許条約) 加盟国の居住者による出願。
- ・各国特許庁における国別内訳は下記資料に定義に従っている。

出典：特許行政年次報告書2018

# PCT出願件数上位10社（2006・2016）

- 2006年は米国3社、日本2社、欧州5社。2016年は中国3社、米国3社、日本2社、韓国2社。

## 2006年

順位	出願人名	国	公報数
1	フィリップス	オランダ	2495
2	松下電器産業	日本	2344
3	シーメンス	ドイツ	1480
4	ノキア	フィンランド	1036
5	ボッシュ	ドイツ	962
6	3M	アメリカ	727
7	BASF	ドイツ	714
8	トヨタ自動車	日本	704
9	インテル	アメリカ	690
10	モトローラ	アメリカ	637

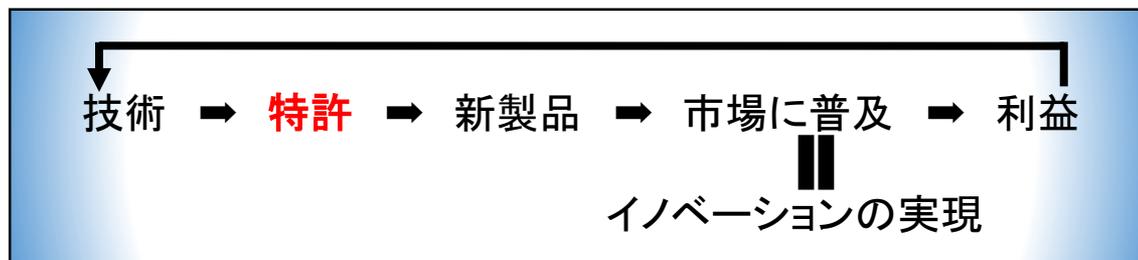
## 2016年

順位	出願人名	国	公報数
1	ZTE	中国	4123
2	ファーウェイ	中国	3692
3	クアルコム	アメリカ	2466
4	三菱電機	日本	2053
5	LG	韓国	1888
6	HP	アメリカ	1742
7	インテル	アメリカ	1692
8	BOE	中国	1673
9	サムスン	韓国	1672
10	ソニー	日本	1655

## モノに関する技術が競争力の主たる源泉

供給主導の リニアモデル = 核となる知財を押さえて

- ➡ 市場の獲得 維持
- ➡ 利益 ➡ 技術に再投資

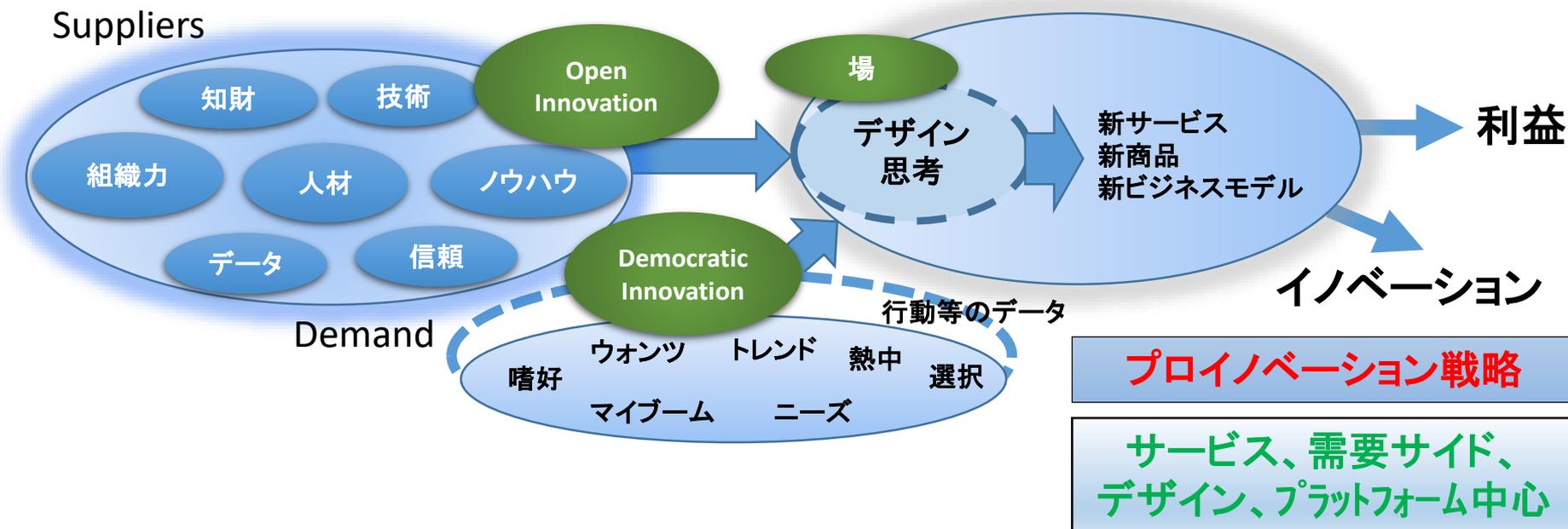


**プロパテント戦略**

モノ、供給サイド、技術、  
パイプライン中心

- イノベーションの変質（供給主導から需要主導へ）
- データ、人工知能、IoTなどの技術的進展
- 人々の価値観の変化（モノよりコト、共感、シェアなど）
- データ、その分析技術、それらを活かしたビジネスモデルが新たな競争力の源泉に

需要主導の市場 = 新技術・新製品でも選ばれないと売れない+複雑系



## オープン&クローズ戦略の深化

「知財の秘密化」

×

「知財の権利化（独占・公開・交換）」

×

「知財の標準化」

×

「知財の共有による利活用拡大」

×

「知財を生み出すベースとなるデータの獲得・共有・流通」